

東京都内のホテルの客室稼働率は7月も前年同月を下回った。日本経済新聞がまとめた主要18ホテルの客室平均稼働率は前年同月比3・0%低下の83・2%だった。ほぼ満室の状態とされる80%台は保ったものの、6カ月連続で前年実績に届かなかった。

15のホテルの稼働率が前年実績を下回った。高水準の稼働率を受け、客室料金を引き上げるホテルが多く、国内客の需要が振るわなかった。品川プリンスホテル（港区）は稼働率が前年同月比1・7%低下する一方、客

ホテル、高稼働率が一服

都内7月83% 円高で訪日客需要減

都内の主なホテルの稼働率は軒並み低下している



室平均単価は6%程度上昇。収益の底上げにつながる単価上昇を重視し、現状でも料金水準を引き上げるホテルは多い。稼働率の前年割れの背景には円高進行が訪日外国人客の需要に水を差したとの声もある。稼働率を2割近く上回り、単月

割安プラン増の兆し

の過去最高を記録した。しかし、英国の欧州連合（EU）離脱問題などで世界の金融市場が乱高下し、円高が急ピッチで進んだことが訪日客の一部の需要に影響している。6カ月連続で稼働率が前年実績を下回り、上昇一辺倒だった客室料金に変調の兆しがある。あるホテルでは「料金の上昇に需要がついてこられなくなっている」。実際、5月の連休以降は国内のレジャー客の需要が低調という声が多い。大手の旅行会社によると、「最近はやいプランが目立つようになってき

た」。国内客の獲得に向け、あるホテルはインターネット専門の旅行会社を通じて割安プランの販売を強化。1～6月には前年同期を2割程度上回っていた客室単価が7月は微増にとどまった。7月の客室単価が3%下落したホテルもある。

7月の稼働率は「ロイヤルパークホテル・ザ・汐留」（港区）「帝国ホテル東京」（千代田区）など3ホテルが前年同月を上回った。ロイヤルパークホテル・ザ・汐留は約2%上昇の約94%、帝国ホテル東京は1・1%上昇の68・9%だった。